

【やってみよう】

「甲州八珍果」全部言えるかな？

八珍果の起こり

甲州八珍果(甲斐八珍果)は、江戸時代に甲斐の国の代表的な8種の果物を総称したものです。この8種類の果物というのは、葡萄(ぶどう)・梨(なし)・桃(もも)・柿(かき)・栗(くり)・林檎(りんご)・石榴(ざくろ)・胡桃(くるみ)ですが、胡桃を銀杏(ぎんなん)に代えることもあります。

現在、山梨県は全国1位の生産量をあげるぶどうとももをはじめ、かき・りんごその他の果樹栽培をあわせて、果樹王国の名を誇っています。甲府盆地の地形と内陸性気候などの自然条件が、これらの果樹栽培に適していたからだと思われませんが、すでに江戸時代、この地で収穫できる代表的な8種類の果樹を総称して、甲斐八珍果の呼び名が生まれていました。

「一竹二杉三桜四五九うまいが八珍果」という言葉は、俳人として知られた安田漫々がつくった狂歌(日常の出来事などを、おもしろおかしく詠んだ歌)だといわれています。

甲斐八珍果は、いつ、誰によって選定されたものか発祥は明らかではありません。いろいろな説がありますので調べてみましょう。

【参考資料】

| 参考文献名 | 発行所 | 著者・编者 | 発行年 |
|-------------------|--------|-------|------|
| 図説日本の歴史 19 山梨県の歴史 | 河出書房新社 | 磯貝正義 | 1990 |

| 参考ホームページ | URL |
|----------|---|
| 甲州文庫 | http://www.lib.pref.yamanashi.jp/kosyu/manabu/sangyo/sangyo_7.html |